



## iCraft レースレポート

### PIRELLI スーパー耐久シリーズ 2020 第2戦 「SUGO スーパー耐久 3 時間耐久レース」

10月10日 スポーツランド SUGO (宮城県)  
予選：雨/ウェット 入場者数：2,200人  
決勝：雨/ウェット 入場者数：2,900人  
ナチュラルチューニング☆クスコ☆NATS (マツダロードスター ND5RC)  
小松寛子/猪爪杏奈/岡原達也/金井亮忠

#### またしても雨とSCに行く手を阻まれ、悔しい7位に終わる

マツダファンエンデュランスシリーズ (マツ耐) やロードスターパーティレース III を戦ってきた iCraft (猪爪俊之: 監督) は、2020年より新たなステージとなる、PIRELLI スーパー耐久シリーズに参戦。激戦区として知られる ST-5 クラスに、マツダロードスター「ナチュラルチューニング☆クスコ☆NATS」で挑むことになった。なお参戦にあたり、日本自動車大学校 (NATS) の支援を受け、学生たちがマシンを製作し、メカニックを担当する。

スポーツランド SUGO でスーパー耐久の第2戦が行われるのは、例年どおりではあるものの、コロナ禍によって季節は当初の春から秋に改められることになった。しかし、グループをふたつに分けて、3時間レースで争われるのは従来どおりである。

前回のレースは開幕戦で、いきなり24時間という前代未聞の状況だったばかりか、レースの大半で路面が雨で濡らされ、しかも中断とセーフティカー (SC)、フルコースイエロー (FCY) による非競技時間が6時間にも及んだことで、持ち味を封じ込まれてしまった感は否めず。それでも表彰台が見えかけた、ほぼ20時間を経過時に ST-X 車両と接触の不運も……。足回りにダメージを負い、戦列復帰はできたが修復の遅れを取り戻せず、無念の9位に甘んじた。

第2戦の舞台となるスポーツランド SUGO は、高速テクニカルコースで FR であるロードスターとは相性は抜群。前回の無念を晴らすには、格好の舞台となるはずだ。なお、今回は小松寛子、猪爪杏奈、岡原達也、金井亮忠の4人体制での参戦となる。



#### 公式予選

公式予選に先駆け、金曜日には専有走行が行われた。台風14号接近の影響が危ぶまれたものの、当初予想された進路が大幅にずれたこともあり、終日ドライコンディションでの走行となった。午前のセッション1では1分41秒169で4番手、午後のセッション2では1分40秒405を記して、同じ4番手ながらタイムアップも果たし、まずまず順調な滑り出しではあったものの、セッション3の終盤にエンジンがブロー。ただし、このタイミングであったことが幸いし、セッション後に換装されて無事本戦に臨むこととなった。

土曜日は秋雨前線の影響で、早朝から雨に見舞われてしまう。フリー走行は NEW エンジンのチェックをメインに行い1分54秒960を記すに留まったが、それでも6番手につけロードスター勢の中では3番手。天候が回復すれば、十分に勝負権ありと思われたのだが……。願いに反して、予選ではさらに雨足が増してしまふ。

Aドライバー予選に挑んだ小松は、最初のアタックを赤旗でふいにしてしまい、さらに再開後もなかなかクリアラップに恵まれなかったが、ラスト2週の計測で1分52秒873をマークして、8番手につけることとなった。

Bドライバー予選では、より雨量が増して、いたるところに川もできるほどコンディションは悪化。そんな状況でも猪爪は途中まで全セクターでパーソナルベストを更新してアタックしていたが、またしても赤旗が出され計測は中断。再開後は更に雨量が増しタイムアップは果たせなかった為、中断前の1分56秒120で12番手に。タイム合算によって、決勝レースには10番手から臨むこととなった。

なお、その後のC/Dドライバー予選では、さらに雨は勢いを増したため、全体的に低調なタイムに留まる中、岡原が1分59秒415、金井が2分0秒699を記録していた。



## 小松寛子

ピット位置の関係で、団子状態の中に入っていかなければならなかったのですが、雨も降っているから、いつ赤旗が出るか分からないのでとにかく走るしかありませんでした。

できるだけ前との間隔は開けていたつもりだったのですが、それでも前に追いついてしまい、100%の力を出し切れませんでした。なんとか走りきったというところです。

## 猪爪杏奈

あまり良くなかったですね。位置取りは悪くなかったのですが、雨量の読みが甘く序盤にタイムを出せませんでした。今後同じ失敗を繰り返さないようにしっかり反省します。



## 決勝レース

今回は3時間レースの2グループ開催とあって、予選終了から3時間と経たず、決勝レースを迎えることとなった。雨は依然として降りやまず、そのためSCスタートからのレース開始となる。今回もスタート担当は金井で、あらかじめロングステントとなること、猪爪監督から伝えられていた。1周目から早くもピットに飛び込み、義務づけられたドライバー交代を伴うピットストップを行なったチームがあったことから、さっそくひとつ順位を上げ、さらに5周目に切られたリスタートもしっかり決めて、金井は8番手にジャンプアップ。

その後も先行車両の背後につけて、プレッシャーをかけ続ける一方で、しっかり燃費も稼いでいた金井。23周目には7番手に浮上する。1時間を経過すると、ドライバー交代を行うチームも現れたことから5番手にまで浮上した41周目、スタートから1時間25分経過時点でSCが導入されてしまう。

これはチームにとって大誤算、金井で2時間近く引っ張る予定だったからだ。やむなくピットに呼び戻して小松にスイッチ。さらに2周後には岡原に代えて、ロスを最小限とすることには成功した一方で、SCとの位置関係でトップとは1週の差がついてしまう。46周目からレースは再開、その後も50周目から2周到わたってSCが導入され、隊列が詰まったことから、その後の岡原は激しくバトルを繰り返すこととなる。

まさに一進一退の状況が続く中、岡原は1時間25分を走破。「ナチュラルチューニング☆クスコ☆NATS」は7位でゴールし、2戦連続の完走でレースを終えた。

次回のレースは10月31日に岡山国際サーキットで、今回同様3時間レースとして開催される。このコースもまたFRのロードスターとの相性は良いだけに、今度こそフルドライのレースになることが多いに期待される。



### 小松寛子

チームの作戦で、SCが入ったタイミングで2周のみの走行となりました。ガソリンを満タンにすれば最後まで走りきることはわかっていたので、SC中に交代したほうが良いだろうと。岡山でまた頑張ります。

### 猪爪杏奈

今回はチームの作戦で控えになりましたが、次戦の岡山は得意なコース。チームの為にも力強い走りをして優勝を目指します。

### 岡原達也

ほぼ終日ウェットコンディションだった木曜日のスポーツ走行枠も自分の走行枠はほぼドライで、このレースウィークで初めてフルウェットを走ったのが大雨の予選でした。アジャストしきれずいいリズムで走れないまま決勝が終わってしまいましたが、ロングステイメント任せていただいて、無事にチェッカーまで車を運ぶことができたので及第点でしょうか。今後は例えウェットでももう少し良い走りができるよう頑張ります。



### 金井亮忠

本当はもっと走り続ける予定だったのですが、あのまま走り続けるのは無理なぐらい凄い雨量でした。無線で『たぶんSC出るから準備してください』という指示の後、実際に2周後に出たので、運営的には適正だったのではないのでしょうか。あそこまで雨量が増えてくると、結果的にFF勢が有利でしたが、途中までは数珠つなぎで走行もできたので楽しかったです。



### 猪爪俊之監督

唯一惜しかったのは、金井をフルに使えなかったこと。もう少し引っ張っていたらもっと上の順位もあったかもしれません。まあ、新参者で実力どおりだと言われればそのとおりですが、まだ伸び代はあると思っています。今回もいろんな勉強ができたことで、次は得意な岡山ですから、みんなに頑張ってもらいます。

